「バランスの取れた食生活」に関する日仏共同文書

我々、日本国農林水産大臣とフランス共和国農業・食料大臣は、食料システムサミットのプレサミットを機に、持続可能な農業生産と食料システムの実現が急務であることを認識し、以下の事項について認識を確認する。

食生活は私たちの生活に欠かせないものであり、持続可能なフードシステムの中核をなすものである。私たちは、持続可能な方法で生産され、年齢や栄養状態を考慮して適切な量が消費され、包括的な消費者への情報提供を伴う、安全で栄養価の高い多様な食品に基づくバランスの取れた食生活を推進することが、世界の経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する道を開くと確信している。

我々は、これまで私たちが支持してきた、より良い食生活に関する知識が活用されるべきであり、バランスの取れた食生活の推進は、伝統的な各地域の知識や、エビデンスと科学に基づいて行われるべきであるという信念を共有する。持続可能な食料システムを実現するためには、各地域の歴史と伝統に根ざした私たちの知恵に最大限の注意を払うべきである。

この観点から、我々は、CFS（世界食料安全保障委員会）の「食と栄養に関する自主的ガイドライン」に示された「持続可能な食料システムを通じた健康的な食生活」の精神に基づき、学校給食プログラムを含め、日仏それぞれの食生活ガイドラインや食育の経験を共有することで、グローバルな食料システムの持続可能性に貢献していく。